

弓道ながの

創刊号

発行：長野県弓道連盟
会長 古澤 博
〒389-2253
飯山市中央橋通り
TEL 0269 (62) 4121
編集：県弓連広報部会
印刷：榊長野企画会議

広報「弓道ながの」発刊によせて



長野県弓道連盟 会長 古澤 博

県弓連広報「弓道ながの」の発刊にあたり、一言申しあげます。

長野県弓道連盟が創立五十四年、顧みますと、戦後混乱のなか、多くの先輩諸氏の熱意と、ご尽力により、戦前の武徳会から脱皮し、昭和二十二年五月、全日本弓道連盟が発足しました。そして長野県弓道連盟が設立され、坂西清信氏が会長に推薦されました。それから今日まで受継がれ、以降五十余年になります。

歴代会長

初代 坂西 清信 二代 春原平八郎
三代 林 亮夫 四代 塚田 八郎

五代 濱 與祐 六代 大久保秀雄
七代 宮澤 廣 八代 古澤 博
称号受有者

範士八名 教士七二名 錬士一四四名
会員一五八六名 高校生二八六〇名
現在まで、県弓道連盟の発展は著しく、特に範士の先生の数は、日本一で八名の多きになります。そのため指導面において、充実した連盟に育成されてまいりました。

また、会員の皆様の素質は向上し、成績があがり、全国的にも屈指の実績、実績をもった弓道県に成長してまいりました。現今各県では、広報や弓道史が盛んに発刊される中で、我が長野県も仲間にならうと役員会に相談したところ了承され、総会に提案して受け入れていただき、高井忠史氏が常任

理事・広報部長に決定しました。これから「弓道ながの」により、県下弓道界の情報、指導面の研究、各種大会の成績、審査の結果、会員のご意見や全国からの逸話等の発表により、会得した術が、弓道修練の原動力になればと考えています。

六十年史については、県内各地の弓歴の発掘、県弓連創立時より関係している先輩の生の声、残すべき県弓連の歴史、成績、記録等を纏めた史書により、会員が手元ですぐ分り、後世に伝えられる書物にしたいものです。

弓史の中から伝統が生れ、活力が蘇えり、弓士の糧となり、実力発揮の資料になれば幸いです。

(財)全日本弓道連盟は約十年にわたる熟慮の末、十億円という資金を提供し、明治神宮の神域に中央道場を建設しました。遠近両用の道場、又至誠館道場を併用でき、実に合理的な便利な道場となりました。交通の便は勿論、国の中央東京にあり、将来日本弓道の基盤として、発展は疑いなく、全国各地連においても、質的に躍進の一途をたどることでしょう。我が県弓連もその進展に追従しなければなりません。情報を入れて研鑽し、優秀な射手

を多く輩出することを念じています。又会員の皆様に聞いていただきたいこと、是非お知らせしたいことを報道しなければなりません。

弓道の修練で「技」の習得は勿論ですが「小技、小手先の技巧」ではなく、弓道の基本に立脚して縦横十文字の規矩を守り、内外相呼応する伸合に徹し、心気の働きと一体化しなければなりません。心と技は別ではなく、表裏一体、不可分の関係にあり、又心気の働きは技の成否を左右するものです。心に命じ、厳しい錬磨により人間形成に、自主的に努力することを念願します。「追付け、追越せ」のスローガンのもと、無心で修練を重ね、集中して頂きたい。

今年の役員総会において、役員の皆様をお願いしたい目標は「周到なる準備をして、躊躇することなく、前進あるのみ」というキャッチフレーズです。所謂「熟慮断行」の四字です。準備を周到にして、猪突猛進といえるのではないのでしょうか、気をぬいたり、油断をすれば命取りになります。「弓道ながの」の発刊にあたり、長野県弓道連盟が益々の発展を願う気持ち一杯です。

平成十四年度

役員総会開催

本年度県弓道連役員総会が、二月三日、長野県農協ビル(長野市)において開催され、平成十三年度の総括と、平成十四年度の事業計画案並びに予算案を審議し、可決承認され新年度のスタートを切った。

役員総会は、顧問、参与、名誉会長を始め、県弓道連古澤会長ほか現役員並びに評議員(二十五名中、出席二十三名、委任状一名)を含め五十余名が参集し、議長に降旗昭雄氏(南信一諏訪支部)を選任し、終始活発な論議が交され、提出議案がほぼ原案どおり承認され、盛会裡に打ち上げられた。

特筆すべき事項として

一、本年度新たに「広報部」が創設されることになり、(規約十九条)部員四名(東北中南信各一名)を選任し、部長に高井忠史氏が選任された。

二、また広報部の新設と、従前の「高校部会」を「ジュニア部」と改称す

ること等による所要の規約改正がなされることになり、併せて各事業部の呼称が改められた。

三、さらに将来展望にたつた県弓道の「基金積立」。前記広報部活動のための事業費、審査関係諸費の値上げ改訂等、歳出予算の増嵩に対応し



た、審査料、附加金の増額改定、並びに称号受有者を始め、参段以上の高段位者の分担金の増徴により、前述支出総額に見合う相当額の歳入予算の増額を見込み新年度予算の策定がなされた。

以上本年度役員総会の大筋を記述

しましたが、具体的細部事項につきましては、平成十四年度事業計画書をご高覧のうえ、今後とも会員各位の深いご理解ご協力により、長野県弓道連盟の益々の発展振興を希つて総会報告とします。(事務局記)

総務部・指導部

行事・講習会に積極参加を

総務・指導部長 櫻井 耕三

何の様子も分からずに、総務部長を引受けてから早一年、総務部員の皆さんのご協力により何とか過ごして来ましたが、万事慣れの為にご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

つきましては昨年度の反省と、役員総会のご指摘に基づき、会員の皆様の活動が速やかに行なわれる様に総務部会を開き、部員の任務分担を決定したところでは、

その中で特に会員の皆様にお願ひすることは、

県外審査・県外大会の申込みは期日を厳守すること。

この件については、各支部長さんが取りまとめて申し込むことになってい

ますが、その後に申込みをする会員があります。期日に間に合う場合は、書類を書き直しても受付けています。が、本来ならば受付けできないことです。できるだけ余裕を持って申込むようお願いいたします。

指導部の関係では、日頃から各種講習会に多数の参加をいただき、厚く御礼申し上げます。

本年の役員総会で出された講習会の会場の件については、交通の便等を考慮しながら指導部で検討したいと思ひます。

教士研修会については、古澤県連会長のご尽力により、全日本弓道連盟会長鴨川乃武幸先生、全日本弓道連盟指導委員長鈴木三成先生のお二人に講師を引受けていただきました。

特に鴨川会長先生が、地連の講習会の講師を引受けられることはほとんど無いと思ひます。

弓道誌二月号に鈴木先生の「弓道の理想とする真の指導者とは」との文章が載っています。

今回は、この実践講習会になると思ひますので、全員が参加して、長野県弓道界の発展にご尽力をお願いいたします。

競技部

競技部事業計画について

競技部長 清水 克也

競技部会の事業運営については、格別なご協力を賜り深く感謝申し上げます。

去る二月三日の役員総会におきまして、平成十四年度の計画が原案どおり承認可決され、新たな気持ちでスタートすることになりました。

今年度計画で、競技方法等については昨年度と大巾に変更された部分を紹介しておきたいと思えます。

- 一、県弓道近的選手権大会について
- 従来的一次予選、二次予選を取り止め予選と決勝に改める。予選で各自四ツ矢一回を行い、的中二中以上が決勝に進出。決勝戦は射詰競射とする。
- 二、全日本男子、女子選手権の予選会について

一次予選、二次予選を止めて予選と決勝の二建てとする。予選では各自四射(一手二回)を行い、採点制により得点上位者より十五名選出し、決勝へ進む。

決勝では各自四射(一手二回)を行い、採点制により得点上位者より男女各七名を選出する。内、第一位を県代表とし、第二位から第七位をブロック代表とする。

三、支部對抗競技会について

大会名を全信州弓道支部對抗競技会に変更する。団体予選では、従来の六チーム選出を止めて、すべてのチームが四ツ矢三回の六〇射を行的中制により順位を決定することにする。

概略以上のとおりであります。(詳細については平成十四年度県弓連「弓道」事業計画書を参照ねがいます。)

本年度も県弓連支部長様はじめ関係役員、各弓士の皆様方のご協力をいただき、各々の大会が盛会裡に執り行われますよう格段のお力添えをおねがいたします。

審査部

修練の成果を審査会で

副会長 渡辺 静夫

平成14年度は、地方審査14回、北信越錬士臨時中央審査、北信越連合審査が県内で開催されます。

開催地には運営等について、格別のご協力をいただきたく願います。

本年は審査付加金についても、一部改定をしてありますので、ご了承を願います。毎回、皆さんが、心置きなく受審できるように配慮しているつもりですが、受審者が多い際には何かと行き届かない点もあり、ご迷惑をおかけした

事を反省しております。

良い成績で全員が合格できるよう祈っておりますが、なかには、弓道修練もおろそかにして、昇段昇格のことに拘らわれている方も、一部に見られることは残念です。

的の中も大切な要素ですが、体配、射型、加えて人間形成の重要なことも考えてほしいと感じました。

積み重ねた修練の成果を具現する場としての審査会であり、受審者の態度が特に大切であると考えます。今期も中央・地方審査での合格者が大勢でありますよう、ご期待いたします。

強化部

国体天皇杯を目指して

強化部長 外園 公毅

強化部の活動は正に国体選手の強化育成にあります。県体協からの補助金も国体で成果を上げるためのものです。従って国体の成績次第で補助額が上下するのは、結果を重視する実力の世界では当然のことです。

強化部とすれば国体選手として通用する人材の発掘強化に心血を注いでいるわけです。しかも単年でなく中長期的な選手の育成の必要性を痛感してい

ます。北信越五県の中ではずば抜けて弓道人口の多さを誇っているのが県も実力的には今やどうでしょうか。打倒長野を目指してきた他県に押され気味で、北信越国体をやつとこ通過して狂喜しているような様です。

すばらしい活躍をした先達の後に続く者がいないというのが今の長野県の現実ではないでしょうか。南北に広い長野県の地域性の問題、マンモス校からは強いスポーツクラブは出ないというのと同じように、まとまりのなさというかまとめにくいという問題、社会情勢、職場環境の悪化により、弓どころではないという余裕のなさ、あるいはわれわれが国体を目指していた頃の情勢や国体そのものの魅力が今はかなり減少しているなど、問題点は多く

ありますが、問題点を明確にすれば方策を打ち出しやすい。今はその緒についたばかり、強化部一同、長野県を強くしたいと一途に念じている者の集まり、「念ずれば通ず」で事が成るわけはなく、それなりに状勢を具現化する決意であります。国体選手の強化そして成果を上げることが長野県弓道のレベルアップに繋がるものと信じて強化部一同一丸となって取り組む所存です。

ジュニア部

高校生の競技力向上を

ジュニア部長 古澤 金蔵

2月3日の総会が終わり、高校部はジュニア部と名称が変更になりました。広報部が新しく設けられたため、単に紛らわしき解消のための名称変更です。当面は、従来までと同様に高校生中心に活動していきますので、よろしく願います。

さて、前小林武高校部長より役職を引き継いでから、今年で5年が経過しました。この間、県連のみなさん方のご協力により仕事をさせていただき、特に高校部員の方々のご協力により大過なくここまで来ました。また、県内84校、男女2800名余の高校生の活躍も支えになりました。

今年のジュニア部は、2年前より新設しました全国高校選抜大会の長野県予選会の運営が中心となります。3月の全国大会へ向けて、長野県内では9月下旬より各地区大会が始まり、10月中旬の新人県大会を経て12月上田市で長野県代表を決定していきます。今後の課題として、国体少年の部長野県予選会の位置付けについて検討してい

きたいと思っています。14年度の国体は夏季国体のため、13年12月の選抜予選会の折、候補選手を選出し、冬季期間の合宿等を経て3月下旬に決定となります。

15年度以降については現在白紙状態です。他県の選手決定について様々ですが、長野県は今年のように早めに候補選手を決定していく方向が望ましいように思えます。しかし、国体予選会については、14年は開催しませんが、13年までは7月上旬に開催していました。このビックイベントが姿を消してしまうには大変残念にも思います。数多くのみなさんご意見をお聞きしながら、県内高校生競技力向上に向け、より一層前進していきたいと思えます。今後ともよろしく願います。

広報部

読みやすく親しまれる広報づくり

広報部長 高井 忠史

新設の広報部を担当することとなり部員一同事業推進に向け微力ではありますが、全力を尽してまいりたいと考えております。

広報部の本年度事業は、会員への情報提供としての広報誌の発行と、県弓連60年史の発刊準備であります。いず

れも県弓連の重要課題であり責任の重さを感じております。

広報におきましては年間計画を含め、いろいろと意見が出され内容も大会結果報告ばかりでなく、読んで為になり親しみやすい広報になるよう編集にあたっては工夫をしてまいります。仲間の紹介や寄稿依頼も各地区が廻り番となるよう企画しております。次号はあなたの地区かもしれません。その節はぜひ、ご協力ください。

また県弓連のホームページについても開設いたします。

背伸びをせず長続きが出来るよう努力いたしますので、絶大なるご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。

審査合格者

○臨時中央審査

◆錬士の部 11月24日 福岡

高木 亮子(上 小)

○近畿臨時中央審査

◆六段の部 12月1日 大津

倉根 嘉四男(南佐久)

○特別中央審査

◆錬士の部 12月23日 東京

松澤 千歳(松本)

遠藤 由美子(上 小)

弓道用語・教歌

◆思無邪

心に邪な考えを持たないことで、弓を射る、無理に的中しようとか、射を見せてやろうとか云う慾心を去って正しい心で、澄んだ気持ちで、正しい射法の教える通りに、純一無雜となつて誠心誠意行射することである。



故 林亮天範士 色紙

◆北信越弓道連合会
会長・理事長会議報告

平成14年3月17日 福井市
県弓連出席者 会長 古澤 博
理事長 桜井 耕三

決定事項

◆全日本弓道連盟北信越地区理事
長野県弓道連盟会長 古澤 博

一、北信越連合会長・理事長会議

(1) 7月19日福井市(北信越国体)

(2) 11月2日福井市(北信越選手権)

二、北信越四・五段講習会

(1) 5月26日(信越の部)

長岡市民弓道場

(2) 6月23日(北陸の部)

福井県立武道館弓道場

三、北信越称号受有者講習会

(1) 4月7日(北陸の部)

福井県立武道館弓道場

(2) 5月26日(信越の部)

長岡市民弓道場

四、北信越地区指導者講習会

5月25日～26日

上越市弓道場

五、全日本選手権大会

北信越ブロック予選会

7月28日 上越市弓道場

六、第23回北信越国民体育大会

7月20日～21日

福井県立武道館弓道場

七、第32回北信越弓道選手権大会

11月3日

福井県立武道館弓道場

八、北信越地区連合審査

(1) 6月2日(信越の部)

柏崎市営武道館弓道場

(2) 7月7日(北陸の部)

福井県立武道館弓道場

(3) 10月20日(北信越の部)

長野県営飯田弓道場

九、北信越地区錬士臨時中央審査

6月9日 長野市営弓道場

十、北信越地区臨時中央審査

9月28日～29日

富山大島町弓道場

立順決定

◆第23回北信越国民体育大会

・少年男子 ①新潟県②福井県

③石川県④長野県

⑤富山県

・少年女子

①福井県②石川県

③富山県④新潟県

・成年女子 ⑤長野県

①富山県②長野県

③福井県④石川県

⑤新潟県

◆第32回北信越選手権大会

・有段者の部 ①新潟県②富山県

③福井県④長野県

⑤石川県

・女子の部 ①長野県②石川県

③富山県④福井県

⑤新潟県

・称号者の部 ①長野県②富山県

③福井県④新潟県

⑤石川県

◆明治神宮崇敬会入会のお願い◆

このたび明治神宮より崇敬会入会の依頼がありました。県弓連としても、加入促進に協力することになりましたのでよろしく願います。

一、特別会員(五万円以上)

二、維持会員(一万円以上)

三、協賛会員(五千元以上)

四、一般会員(参千元以上)

個人直接入会となりますが、くわしくは県弓連事務局又は

〒一五一―〇〇五二

東京都渋谷区代々木神園町一―

明治神宮崇敬会まで

第57回国民体育大会
出場選手決定!!
(強化部)

○3月31日/県営飯田弓道場

最終選考会の結果次の通り選手決定す

◆成年男子監督 外蘭公毅(上伊那)

選手 小澤剛志(上伊那)

山岸稔員(長野)

新津一夫(長鉄)

牧内和宏(飯伊)補欠

◆成年女子監督 山崎勝(上小)

選手 徳繁亜希奈(長野)

春日奈美子(上伊那)

長尾真樹子(諏訪)

清水和代(飯山)補欠

◆少年男子監督 北嶋晋(上伊那)

選手 山田洋史(伊那弥生)

田中慶彦(上田)

寺島洋平(中野西)

岡村雪(長野日大)補欠

◆少年女子監督 山口久美子(諏訪)

選手 三村典子(松本美須々)

安原美紗(長野日大)

伊藤綾(赤穂)

三村美和(塩尻志学館)

成年女子、少年男女は7月20～21日、福井県で行われる、北信越国体の結果により、本国体(高知県/9月20～24日)への出場が決定となります。

ご声援をお願いします。

第33回春季北信越学生弓道大会

平成14年3月15日～17日

東部町弓道場/参加者172名

○北信越学生弓道連盟

会長 齊藤 節朗

○大会審判長 範士八段 栗林 實

審判員 教士七段 日暮 千曲

教士六段 清水 克也

成績は次の通り

◆団体

▽男子160射①信州大学126中②金沢学院大学100中③富山大学99中

▽女子80射①富山大学43中②信州大学42中③新潟大学39中

◆個人

▽男子20射①玉木智基(富山大学)

19中②西川裕宣(福井工業大学)

18中③中野雅之(信州大学) 17中

④矢沢拓真(信州大学) 17中⑤福満崇寛(信州大学) 17中⑥阿部広佑(新潟大学) 17中

▽女子20射①古部理恵(金沢学院大学)

15中②熊谷千夏(信州大学)

15中③堤咲子(富山大学) 14中

全国高校選抜大会

平沢(飯田女子) 快拳

第20回大会は3月23日～25日明治神宮至誠館で開催され、個人女子の部で平沢京子選手が、優勝の快拳を達成した。

▽男子個人予選(4射) 小原達也(飯田高) 2中、落選

▽女子個人予選(4射) 平沢京子(飯田女) 3中、決勝へ

▽女子個人決勝(射詰め)

①平沢京子(飯田女) ②八木(福島高) ③古賀(唐津東)

▽男子団体予選(12射) 飯田(木下、間沢、小原) 10中、決勝へ

▽女子団体予選(12射) 飯田女(平沢、勝野、佐々木) 8中、決勝へ

▽男子団体決勝トーナメント・1回戦 幸田(愛知) 11中、9中飯田(長野)

▽女子団体決勝トーナメント・1回戦 秀岳館(熊本) 9中、7中飯田女(長野)

■女子団体は今治南(愛媛)

■男子団体は妻(宮崎)が優勝した。

女子講習会

平成14年3月17日

長野運動公園弓道場参加者 40名

松本市営弓道場参加者 27名

講師 ▼長野会場 小池梨枝子教士

近藤 明子教士

▼松本会場 小池 房子教士

水野 悦子教士

平成14年度の女子講習会が開催され本年度も多くの女性弓士が参加した。

開講式、主任講師の矢渡しに続き、

禱(まごころ)さばき、失の処理、介添え動作、射技射礼の研修など終始熱のこもった指導が行われた。

長野会場では、宮澤廣範士の指導による、本部でも考慮中の「練立ち射礼」の披露が、一糸乱れず行われ参加者に大変興味を持たせた。

総評では、手先のみ射にならぬよう正しい修練の実践を心がけるよう、

また日々、「心技」を鍛える努力と、

驕り(おごり)を持つことなく修練を重ねること、3月号に掲載されている浦上博子

範士のお話しを取り上げ「射として価値のあるものを学んで欲しい」と締めくくり両会場の女子講習会を無事終了した。

長野県弓道連盟

!! ホームページ開設 !!

5月1日開設予定

ホームページURL → <http://kyuren.cool.nt.jp>

メールアドレス → kyuren@cool.nt.jp

★群馬県に待望の 県営弓道場★

前橋市の県総合スポーツセンターにガラス張りの観覧スペースがある近隣の十二人立、遠的場六人立の大弓道場が六月末に完成の予定です。

施設は、鉄筋コンクリート平屋建、床面積約二千七十三平方メートルで、総工費は、備品を含め約六億円。

県営飯田弓道場へも視察に訪れた佐京武数建設委員は「群馬県弓道のレベルアップにつながる待望の施設」と大きな期待を寄せている。



全日本選手権大会に出場して

飯山支部 古澤 金蔵



やっと連続出場ができました。私は全日本選手権大会への出場4回目ですが、

いままでは1年おきの出場でした。自分の前に、余にも大きな壁が立ち上がり、自分のペースを崩してしまう結果、普段の力を発揮できない繰り返しだったと思います。

まだまだ未熟者の私です。長野県代表として初出場の時も、嬉しかったですが、やっと連続出場することが出来た第52回の今年の伊勢大会は、また違った意味での嬉しさが大きかったです。

大会は9月下旬でしたが、伊勢は大変涼しい陽気でした。そんなこともあってか、全体的には的中が高い大会でした。私の立順は26番。宿舎で同室になった、福島県代表の大西先生と同じ立でもあり、自分なりのペースで競技に臨むことができました。

しかし、自分の得点が伸びない。私の射では。高得点を望んでも所詮無理かもしれません、全力でぶつかって行くしか仕方ありません。

運良く第一次予選は通過することができました。第一次予選通過者の発表後、

夕方5時より第二次予選の開始です。最初の1手は1日目、2日目に残りの1手です。北信越地区代表の選手のみなさんも、ほとんど残られていました。

私は二次予選で落選してしまいました。念願の決勝進出、15名の優秀選手への道程は遠く、全国の強豪の先生方には、遠く及ばない力不足を痛感しました。

しかしまだまだ諦めません。今年の第53回大会を目指します。弓道誌に鴨川会長が書かれていた寸評を、また、諸先生方からのご指導をいただきながら、毎日の稽古に励み、5月の長野県予選会へ向けて、毎日の努力の連続と思っています。いろいろありがとうございました。

癖の功名

上小支部 遠藤由美子



七年ぶりに弓を手にしたのは平成十一年三月でした。当初は巻薬で動作を行う

だけで十分楽しむ事が出来ました。伝達講習会に連れて行っていただいた頃から、少しずつ稽古に気がはいつて行

ったように思います。

十月に入り、それまでより少し強い弓を求めました。その弓で基本に忠実な稽古を心掛けておりました折、離れでしゃくると御注意をいただきました。癖はやがて行射の都度、出る様でした。力の強い弓が、勢い良く矢を飛ばしてくれたので身体が怠けたのでしょうか。

どうしたら矯正できるか、八節を一つ一つ組み立てては、崩すことを繰り返す稽古が続きました。思うようにならず挫けそうになる私の傍らに、いつも「大丈夫、大丈夫」と言っは、冷静で的確な御指導を下さる先生がいました。先生の射に対する姿勢から、落ち着く事、恐れな事、あきらめない事、結果は後からついて来る事を学びました。素晴らしい先生に巡り合わせてくれた「癖」に感謝しています。

また、昨年は教室から育てていただいた上田の道場より全日本に出場する機会を得、暮には錬士の称号もいただきました。癖の功名でしょうか。いえ、それより大きかったのは、温かく厳しく御指導下さった県連の会長先生始め、上小の諸先生方・稽古を共にして下さった弓士の皆様の御陰に他なりません。本当に御世話になりました。

「引取りは実に大鳥の羽をのして雲井を下る心得ぞよき」の様な大らかな引分けを、「心をばいかにも春に持ちなして風は吹くとも山は動ぜず」の気構えを持って、正射正中を目指し、精進して参りたいと思っております。

(13年度全日本選手権大会出場・錬十五段)

県弓連人事

広報部の新設に伴う人事及び、中沢広忠事務局長の都合による退任、故白崎茂審査部長の後任について、次の通り県弓連会長名で委嘱・人事発令がありましたのでお知らせします。

○平成十四年二月三日付

右、常任理事を任じ広報部長を命ずる。 高井 忠 史

○平成十四年二月十五日付

右、事務局長を命ずる(兼会計) 理事 岡 田 真

○平成十四年三月八日付

右、常任理事を任じ審査部長を命ずる。 吉澤 金 房

活動報告

遠的矢所の調査と分析

強化部 科学委員会

一、本年度の活動概要

本年度より科学委員会は強化部会の一組織に変更された。これを受けて、科学委員会の活動は強化部の指導の下で調査を行い、その結果を国体選手強化につなげることを目標とした。

数年前に遠的競技は的中制から色的得点制に変更された。この制度改定から、長野県は近的競技より遠的競技の成績が劣る傾向が見られる。昨年の北信越国体を例にすると、

少年男子	四位	優勝
少年女子	二位	二位
成年女子	二位	優勝

であった。もちろん、選手の個人性、得手不得手などへの依存が大きいので一概に判断すべきではないが、遠的競技の強化は必要だと考える。

また、さらに本年度は遠的競技の得点配分が変更になった。この変更の順

位成績への影響を考察し、その対策を練る必要がある。

これらのことを踏まえ、本年は次の事項を調査分析することにした。

- ・遠的競技の矢所(着弾点)を調べ、かに高得点を狙うかを考察する。
- ・得点配分の変更による影響を調べその対策を考える。

二、遠的矢所の調査と分析

強化部の協力を得て、本年度の国体選手を対象に三回のデータ収集を行った。集まった矢所のデータを別に集計し、的上でのばらつきの傾向を分析した。その結果、

- ・横方向より縦方向のばらつきが大きい

という傾向が見て取れた。特に女子にその傾向が大きいこと。原因の一つは弓力の差にあるものと予想される。この傾向は練習による改善が見られるので選手強化のひとつの目安としたい。

三、得点配分の変更とその影響

本年度より色の遠的の得点配分が次のように変更された。

- ・黄色 九点 ↓ 十点
- ・赤色 七点 ↓ 九点
- ・青色 五点 ↓ 七点
- ・黒色 三点 ↓ 五点
- ・白色 一点 ↓ 三点

これに伴い本年度の北信越国体の遠的競技成績から気付く点を列挙する。

- ・全ての区分において、的中数の順位が得点順位と同じ

昨年(平成十二年)の北信越国体では、的中数と得点の順位が入れ替わる「逆転現象」が三ヶ所で起こった。平成十三年の結果ではそれが無い。ちなみに昨年度の北信越国体の成績を今年の点数配分で再計算したところ、全ての「逆転現象」がなくなり順位は的中数順に一致した。

成績は以前の的中制に近くなった。すなわち、まず的に中ることが重要である。コンスタントに中りがあれば、中央にたまたま飛んだ一本の矢に負けるとは無い。ゲーム性は少なくなりよりの中の確実性が求められる。

四、まとめ

・遠的における狙いと修正
狙いのずれは着弾点の中心をもって

推し量ることが出来る。ばらつきの中心を的中央に持つてくることによって高得点が期待できる。選手個人が自身の矢所を把握し、それを修正する練習を行うことは有効である。

もちろん、矢所は射技に依存する面が大きいので、データだけで全てを判断していたずらに狙いを動かすべきでない。これに関しては監督、コーチを通じて射技指導を行い、どうしてそこに矢が飛んだのかを理解しながら修正を行う必要がある。データはその手助けとなるべきものである。

・矢所のばらつきを小さくする
左右(前後)方向のばらつきより上下方向のばらつきのほうが大きい傾向がみられる。特にこの傾向は女子に多い。今後の課題として、このばらつきの原因と、どうしたらばらつきを小さくできるかを科学的に解明しなければならぬ。

・得点配分の変更とその影響
得点配分の変更により、的中重視の傾向が明らかになった。まずは的中することが重要であり、より実力が試されることになる。選手選考や練習方法においても考慮すべき事項であろう。

(内山 喜照)

弓仲聞紹介

飯田下伊那弓友会

(財)飯田市体育協会弓道部事務局

牧内 和宏

長野県弓道連盟飯伊支部は飯田市と下伊那郡各町村の弓道愛好家の会員三百余名が所属する県内最大の支部であり、昭和三十五年に結成された飯田下伊那弓友会と同一の組織である。

飯田下伊那地方は昔から弓道が盛んな土地柄で、毎週どこかの弓道場で月例射会が行われ、多くの弓士が和やかな中にも真剣に技を競い合っている。

飯伊支部では、四、八、十、十一月に飯伊弓友会主催で行われる四大会をはじめとして、三月には地区内九高校の高校生対象の大会を開催し、また秋には地元長姫(おさひめ)ライオンズクラブの厚意による高校生大会の運営等をバックアップするなど、青少年の健全育成の一助を担い、一方、各大会の運営には陰での高校生の手助けは欠かせず、支部と高校生等は持ちつ持たれつの関係といったところである。

これら活動の集大成として高校部門では、輝かしい成績を誇る飯田女子高校を中心に国体少年男女や、一般部門

の成年男女にも優秀な選手を輩出しており、その活発な弓道活動内容・成績が認められ、全国でも有数の規模施設を誇る近代的場と?に屋根があり雨天でも競技可能な遠的場を併設する県営弓道場が飯田市三日市場運動公園内に建設された。

こういった青少年から高齢者に至るまでの弓士の活発な活動や、毎年市町村で行われる弓道教室による弓道人口の底辺拡大、弓道を生活の一部として取り込んでの弓道場運営等、活動には高い評価をいただき、昨年には社会体育優良団体として文部科学大臣賞を受賞し、ますます、盛んな活動を繰り広げているところである。

「弓道ながの」の発刊にあたって、支部概要を寄稿とします。



道と試練

丸子町弓道会 高木 涼子



これまで弓道を続けてきて辛かったこと、書くに書けない三度の試練と膝の故障、一度目は弓友の射会への誘いにより救われ、二度目は家族や職場の友人に支えられましたが、昨年の三度目の試練ではさすがに弓道場に通えない精神状態に落ち入りました。

滝澤副会長が上田弓道場で練習できるように心配りしてくださり、すぎる様な気持ちで練習をさせていた、だきました。日々の練習は池内先生のお宅に通い指導を受けています。巻藁と咩道を利用した仮説道場で稽古を見ていただき、咩道に消えた矢を奥様まで探していただいたこともありました。その頃から使用している弓は先生の愛弓です。

そんな中、里帰りを兼ねて福岡審査を受けた私を夫や子供達、夫の父母も気持ち良く送り出してくれました。故郷熊本では両親、兄夫婦の世話になり贅沢な日々を過ごしました。審査会場では私を知る人は一人もい

ませんでした。先に続けて二次不合格の経験をして多くを学んだことで、今回は、如何なる結果でも悔いは無し、我欲を捨て無心で、練習どおりに、という思いで審査に臨みました。一次の後私を激励してくれた弓士もありました。発表の時は審査委員の先生を始めおおげいの知らない弓士より祝福を受け有難く思いました。

長野に帰って、先生夫妻に「よかつた」と云われた時、自分は一人で弓を引いているのではないんだと思えました。これまでの試練があつたことで、弓道を学ぶ大切さを再認しました。先生をはじめ共に学ぶ弓友の有難さが身に染みしました。人を通して自分の在り方も学びました。

射は仁の道なり、先生曰く「仁徳は愛と礼」人と身体を大切にしてこれからも弓道を続けたいと思います。終りに記念すべき創刊号に投稿の機会をいただき心より感謝と御礼を申し上げます。(錬士五段)



大会 結果報告

第52回三十三間堂大的全国大会

平成14年1月13日/京都市三十三間堂特設射場/新成人参加者1234名、一般参加者768名

- ◆成人男子の部(県関係)
 - 優勝 中野雅之(四段・信州大学)
 - 2位 中村和宏(参段・信州大学)
 - 4位 桃井潤一(四段・信州大学)
- ◆一般の部
 - 3位 牧内和宏(五段・飯伊支部)

第2回—成人の日記念— 全国弓道遠的大会

平成14年1月14日/全弓連中央道場
県関係者の成績は次の通り

- ◆成人男子の部
 - 優勝 平谷友一(参段信州大学)
- ◆一般男子の部
 - 3位 松原剛志(初段信州大学)
- ◆一般女子の部
 - 4位 木内 恵(四段信州大学)

第9回中野冬季100射会

平成14年2月10日/中野市宮弓道場
参加者/42名
成績は次の通り

- 優勝 宮川 登 78中 丸子町
 - 2位 水沢良宣 78中 上田市
 - 3位 中沢弘幸 76中 塩尻市
 - 4位 土屋義雄 72中 中野市
 - 5位 原田正浩 68中 中野市
- 優勝決定は同中のため射詰競射

穂高神社御奉射祭 県下弓道大会

平成14年3月17日/穂高弓道場
参加者249名 成績は次の通り

- ◆ジュニア
 - 団体①諏訪実業(二ノ宮信一・小山仁・百瀬翔)②岡谷南D(村本・唐沢・関)③岡谷南B(伊藤・山本・宮友)○個人①堤貞也(志学館)②小林進吾(岡谷南)③太田友梨(豊科)

- ◆一般
 - 団体①上小(高地美佐子・水沢良宣・飛知和明弘)②善光寺(徳繁・原・細田)③安曇(等々力・高木・竹岡)○個人①小山喜代二(飯山)②水沢良宣(上小)③原田正浩(中野)

編集後記

▼皆さんのご支援・ご協力に感謝し、ここに県弓連広報「弓道ながの」創刊号をお届けします。

▼総会で広報部が新設され、編集打ち合せ、内容検討、近県からの広報収集、文書や電話での問合せなど、新規事業における生みの苦しみを味わいました。経験や知識不足のため、不眠の日々が続きましたが、古澤会長の熱意と斉藤先生のご指導、部員各位の協力で発行にこぎつけられました。

▼今回の企画にあたり、群馬県連の佐京先生、新潟県連の東條先生、小林先生、福井県連の山本先生、富山県連の岡本先生、石川県連の宮野先生から資料や、具体的なご指導をいただき、心から感謝を申しあげます。

「弓道ながの」の毛筆題字では、会員で書家の両角閑堂先生に、お忙しいところご協力をいただきました。

▼限られた紙面ですが、読みやすく、親しまれる県弓連広報となるよう努力を重ねてまいりますので、建設的なご意見、ご提言をお聴かせください。今後の編集に反映をさせていただきます。

(高井 忠史)

祝「弓道ながの」創刊

かぎりない弓道心に真心でおてつだい



有限会社 中島弓具店

長野市中御所1丁目12番5号

TEL026(228)3443 FAX026(223)4855